



「つながる思い まちの絆」

ふるさとだより

2012年

8

月号
No.15

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

久之浜・大久

水祝儀で復興へ「田之網三嶋神社の例大祭」
新しい久之浜の歌を作ろう、歌おう！

四倉

震災に負けず、学校給食を提供
2年ぶりのねぶたといわきおどり開催

平

「プロジェクト伝」活動再開
豊間伝統の獅子舞が復活！

小名浜

小名浜の夏！いわき花火大会と海遊祭
小名浜トピックス「めざせ!!そばや」

勿来

夏の風物詩が、勿来に再び！
なこそ交流スペース、グランドオープン

[写真上]7月29日海竜の里センターで行われた第14回ニジマスつかみどり大会。オープニングセレモニーでは黒潮流みつもり太鼓のメンバーが勇壮な太鼓を披露し、2年ぶりの開催となる同大会を盛り上げました。「以前に比べれば、今日の参加者は少ないかもしれないけれど、震災後海竜の里では最多の人出。多くの方に楽しんでもらえてうれしい」と海竜の里運営協議会の飯島香織会長。イベントの復活が、震災前の日常を取り戻し、明日の久之浜・大久へと繋がっていくことでしょう。

[写真下]四倉第一幼稚園の夏祭りが7月14日、間借りしている四倉小学校で行われました。園児たちは手作りしたお神輿を担いで体育館内を練り歩いた後、模擬店とゲームコーナーがスタートし、輪投げやボウリングに挑戦しました。また、教室ではヨーヨー釣りやくじ引き、かき氷などのコーナーが設けられ、園児たちは大はしゃぎ。祭りの最後には盆踊りが行われ、園児全員参加でいわきおどりなどを楽しみ、思い出に残る夏の1日を過ごしました。



みこし お神輿の勢いを復興へ



神輿と担ぎ手めがけて何杯も水がかけられます

この日地元はもとより市内外からも総勢20名ほどの若者が集いました。「俺たち若者が復興めざしてやつていかないと！小名浜の友達も誘つて参加しました」「仕事先の新潟から駆けつけました」「震災で親父を亡くしま

田之網三嶋神社の例大祭

7月15日、田之網三嶋神社（高木美郎宮司）の例大祭が行われました。この祭りの特徴は、神輿への“水祝儀”。“沿道で待つ地区の皆さんのが置かれ、神輿が家の前を通過する時、担ぎ手めがけて勢い良く水がかけられます。”熱くなつたからだを冷

た神輿が傷まないよう、水で洗い流す意味があるんですね」と高木宮司。

まな思ひを

地区の消防団員も加わり、故郷の海に神輿が泳ぎます

の景色が評判のお店でした。昨年3月11日、海岸に面した店舗では、津波が壁やガラス窓を突き破り、食器、テーブル

まれ、鈴木夫妻との会
しむお客様の笑顔が
る、そんなお店です。

キ>がオーブンしたのは昭和57年のこと。鈴木康平さん・智子さんご夫妻が切り盛りし、コヒーと目前に広がる波立海岸

究会の星野辰三の「か語的」となり、中学生を対象にした学習塾としてお店が使われます。波立海岸にある町の社交場「イブキ」。コーヒーの香りに包

四倉から国道6号線を北上し波立海岸沿いに車を進める
と、間もなく目に飛び込んでくる
のは、市保存樹木指定の「イ
ブキ」。その大木にちなんで名

ば、気持ちも前向きに進んでいい
けるよね」と思いを語つてくれ
ました。営業時間は9時から
19時まで。(毎週木曜日定休)
19時以降は、いわき自然史研

想いと交流の場に

イブキ再オープン

新区長に聞く



金ヶ沢区長
遠藤 真司

震災後、地区の住民たちは、散り散りになつてしましました。中には横浜で避難生活をしている方もいます。それでも、何かあれば集まつて話し合いを重ねて来ました。地区に対する思い、金ヶ沢という地名に対す

る思いが強く、まとまりが良い地区なんなり、10世帯が移転予定です。早く移転して落ち着きたいですね。そして、以前と同じように皆で金ヶ沢のために動いて行きたいと思つています。

窓を突き破り、食器やイス、大切な料理のレシピにいたるまで流されてしまいまして。「ショックで何も考えられないから。それでも、『いつ店始められるの?』『再開まだ?』と声をかけられ、不安もあったけど、多くの人の協力で再開にこぎつけた。」
「ありがとうございました。ありがとうございました。

1セツ1、250円。
収益金は、全額浜風商店
の運営資金に充てられます。
問い合わせ▼久之浜商工会

添えて久之浜商工会へお送り
ください。写真とメッセージは
来年3月11日の「献花の集い」
で展示されます。

浜風商店街から



「復興の花を咲かせよう」プロジェクトが始動しました。

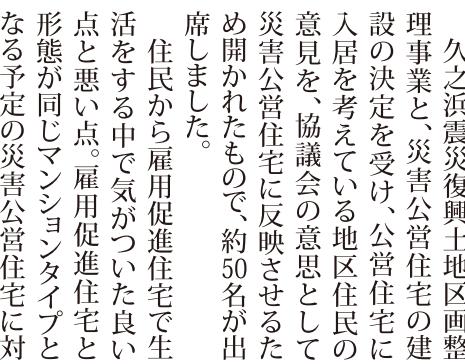
久之浜・大久の みなさんへ

末続地区ふるさとを守る会
代表 遠藤眞也さん

原発事故後避難していた埼玉で、ふるさと未続がどうなっているのか、嫁さんと子どもを連れて未続に帰るために何が必要かを考えました。住んでいた家に戻れるのか、戻れないのかが知りたかった。そこで、自分の家だけでなく未続全体の放射線量を測り地図を作ることにしました。

守る会のメンバー6名で130軒の家屋、500枚近くの田の所有者一人ひとりに承諾をもらうために歩きました。そして計測。末続のみんなの協力があってできた地図です。

放射線とどう向き合って生きていくか、前向きに未続、久之浜のことを考えていきたいと思っています。



久之浜・大久地区復興対策協議会(吉原一六会長)まちづくり専門部会と商工専門部会による「災害公営住宅の建設に向けたワークショップ」が7月20日、内郷雇用促進住宅集会所で開かれました。

する疑問点や希望などを出し
ながら話し合いが持たれまし



災害公営住宅に希望する項目が書き出されワークショップが進みます

新しい久之浜の歌を作ろう、歌おう、奏でよう

員で話し合い、紡いだ言葉の流れをもとに桑原さんが歌詞を、そして谷川さんが作曲して新しい久之浜の歌が完成します。

ティストは、谷川賢作さん（作曲、ピアノ）、佐藤岳彦さん（ハーモニカ、歌）、三原由起子さん（いわき光洋高卒、歌人）、神田京子さん（講談師）、桑原滝弥さん（詩人の5名。紹介もかねたミニライブが行なわれた後、小学生から大人までの参加者40名と作詞に向けた言葉選びが始まりました。一人ひとりが思い描く久之浜の名所や情景が用意されたホワイドトボードに書ききれないほ

「私たちの今」を歌に込めて、未来の自分へ、未来の子供たちへ、未来のふるさとへ届けたい」（市芸術文化交流館アリオス）のおでかけアリオスによる「タイムカプセル2012」が久之浜第一小学校の体育館で開かれました。一回目となる今回は、歌詞づくりのワークショップ。参加したアーティストは、

館での久之浜・大久地域づくり協議会主催の「まちづくりコンサート」で披露されます。



参加した小学生もふるさと久之浜にちなんだ言葉探しに夢中です

5人のアーティストと
今最も注目されるアーティスト

久之浜地区放射線量測定記録 (各区代表ポイント)

- 測定日:平成24年7月30日
 - 天候:晴れ
 - 測定者:久之浜・大久地区復興対策協議会
安全専門部会
 - 測定器:日立アロカメディカル製
ECLIPSE

TCS-172(シンチレーションサーベイメーター)		
測定ポイント	地上 1cm	地上 100cm
田之網(田之網集会所)	0.32	0.31
南町(旧道沿い中央部)	0.12	0.13
中町(旧道高木屋旅館付近)	0.24	0.22
北町(久之浜駅前)	0.32	0.20
東町(久之浜漁協前)	0.11	0.10
西町1区(西町公園付近)	0.31	0.24
西町2区(久之浜第一小正門付近)	0.33	0.27
金ヶ沢(鹿野付近)	0.41	0.43
末続(末続駅前)	0.35	0.28
大久(大久公民館付近)	0.26	0.21
筒木原(久之浜第二小西門付近)	0.13	0.16
小久(町田橋付近)	0.23	0.16
小山田(小山田集会所付近)	0.28	0.23

※(株)東北イノベーターのHP
<http://www.thkinnovator.co.jp/> で
より詳しい放熱線情報をご覧いただけます



大臣表彰式に出席した協議会のみなさん。前列右が木村会長

地域づくり協議会 ★ 国土交通大臣表彰★

久之浜・大久地域づくり協議会の活動が、7月19日国土交通大臣から海事関係功労者表彰を受けました。「ハマエンドウの植栽や海岸清掃など、参加してくれた全ての方々、地域全体に対する表彰だと 생각します」と木村芳秀会長。

表彰式から2日後の7月21日にも、海岸では多くの地区のみなさんが集まり清掃をする姿が見られました。同協議会の今年の標語は「よみがえれ美しい自然、豊かな海」。美しい久之浜のための活動が今日も続きます。



この日は学校が夏休みのため、市民プールで販売する食パンなどを製造していました

「いわきで頑張る子どもたちや保護者に対しても、自分たちが出来ることは、きちんと給食を提供すること」と話す聖訓さん。子どもたちの食を担う使命感と、支えてくれた皆さんへの感謝の気持ちを忘れずに仕事に取り組んでいます。

三代続く製パン工場を襲つた大津波

四倉町五丁目の今井製パン工場は、震災時、津波で押し流された車が社屋に突っ込み、パンを焼く窯などの設備もすべて流されました。津波が引いた後、外出先から会社に戻った今井聖訓社長は、その惨状を見て「どこから手をつけていいか分かりません」と茫然自失だったそうです。

昨年4月、小中学校が授業を再開するのに合わせて、錦町の空き工場を借りて、パンの製造に取り掛かりました。

授業再開當時、給食センターが被災していたため、おかずの提供が出来ず、パンと飲み物だけの簡易給食でした。それでも子どもたちにとっては、同じ教室でクラスメイトと一緒に食べたパンの味は、きっと格別だったはず。

その後、錦の工場が大規模半壊の判定を受けたため、今年4月、小名浜島の工業団地内の空き工場に移転。現在は四倉、平、勿来や山間部などの小中学校向けに、一日17,000食分のパンと米飯を製造しています。

「いわきで頑張る子どもたちや保護者に対しても、自分たちが出来ることは、きちんと給食を提供すること」と話す聖訓さん。子どもたちの食を担う使命感と、支えてくれた皆さんへの感謝の気持ちを忘れずに仕事に取り組んでいます。

会場にはたくさんの見物客が訪れ、踊りとねぶたを見守っていました

息の合った踊りを見せる四倉スポーツ少年団松武館のみなさん

高さ4.5mの大迫力の桃太郎ねぶたには写真を撮る人ばかりができました

ゴールの四ツ倉駅前が近づき、踊り手たちのボルテージは最高潮に

震災に負けず 学校給食を提供

聖訓さんは同社の三代目。「先代が築き上げてきたものを失い、ゼロから再スタートが出来のかと迷いました。この経済状況に加えて、いわきに限らず日本全体で少子化が進む中で、学校給食事業をもう一度やり直すことが出来るのか」と悩んだ末、友人や同業の皆さんのお支えや激励に背中を押されて事業継続を決意。

授業再開当时、給食センターが被災していたため、おかずの提供が出来ず、パンと飲み物だけの簡易給食でした。それでも子どもたちにとっては、同じ教室でクラスメイトと一緒に食べたパンの味は、きっと格別だったはず。

その後、錦の工場が大規模半壊の判定を受けたため、今年4月、小名浜島の工業団地内の空き工場に移転。現在は四倉、平、勿来や山間部などの小中学校向けに、一日17,000食分のパンと米飯を製造しています。

「いわきで頑張る子どもたちや保護者に対しても、自分たちが出来ることは、きちんと給食を提供すること」と話す聖訓さん。子どもたちの食を担う使命感と、支えてくれた皆さんへの感謝の気持ちを忘れずに仕事に取り組んでいます。

感謝と使命感を胸に 新工場で事業再開

「子どもたちの健全育成のためにも、学校給食は大切」と話す今井社長

「第28回四倉ねぶたといわきおどりの夕べ」は7月28日に行われました。四倉夏まつり実行委員会の主催。いわきおどりには地区の児童生徒や企業、市民グループなど15団体、約970名が参加。「ドンワツセ」の掛け声に合わせて、新町、仲町、本町の商店街を経て、四ツ倉駅前までのコースを練り歩きました。いわきおどりの列に続いて、ねぶた3基とねぶた4基が登場。引き手の「ラッセラーラー」の掛け声が四倉の夜空に響き渡り、参加者と見物客は2年ぶりの祭りの雰囲気に酔いしました。沿道で祭りを見守っていた住民のみなさんは「昨年はねぶたが見られなくて寂しかった。やっぱり四倉の夏はこうでなくちゃ」夏祭りの復活で四倉復興に勢いがついて欲しいですねなどと感概深そうに話していました。

「子どもたちの健全育成のためにも、学校給食は大切」と話す今井社長

3

四倉掲示板

着々と復旧工事が進む 四倉漁港

東日本大震災で大きな被害を受けた四倉漁港では、現在、災害復旧工事が進められています。

地震の影響で地盤沈下した同漁港は、満潮時には岸壁の上まで海水が迫るような状況でした。県小名浜港湾建設事務所では防波堤のかさ上げや壊れたブロックの撤去、新しいブロックの設置などを行っています。



四倉漁港の復旧工事風景。一日も早い復旧が望まれています

人材育成事業がスタート 職業体験を通じた

市教育委員会主催のわくわく「じこと塾」事業が市内6地区で始まりました。今号では四倉地区と小名浜地区(P7)の様子を紹介します。

四倉地区の参加者は8月23日

の発表のほかに、お盆になると同会は、公民館やイベントでです。

区の皆さん10名で活動しています。当時は盆踊りのお囃子を練習するために活動していましたが、やがて太鼓、歌、笠踊りも取り入れました。

「盆踊りが2時間あると途中で休憩が必要で、その時間に何か出来ないかと考えて、ペパートリーを増やしました」と顧問の鈴木四郎さん。鈴木さんは約30年前、同会の発足当初から笛を指導しているベテランです。

大浦で活動続けて30年の いわきしのぶえ

同会は四倉地区や久之浜地区の皆さん10名で活動しています。

当時は盆踊りのお囃子を練習するために活動していましたが、やがて太鼓、歌、笠踊りも取り入れました。

「盆踊りが2時間あると途中で休憩が必要で、その時間に何か出来ないかと考えて、ペパートリーを増やしました」と顧問の鈴木四郎さん。鈴木さんは約30年前、同会の発足当初から笛を指導しているベテランです。

7月25日、四倉地区的児童、

11日にリニューアルオープンした道の駅よつくら港の情報館。その海に面した柱には、さまざまな言葉や絵が書かれた約600枚の陶板が貼られています。

道の駅の柱に メッセージ入りの陶板



お盆が近くなると新盆回りに備えて、四倉海岸の駐車場でも練習します

●わくわくしごと塾とは：震災や原発事故の影響を払拭し、将来への希望を高めるため市内の小学生を対象に、職業体験で働く意識や職業観を育むとともに、地域の価値を再発見してもらうことで、郷土への誇りや愛着などを醸成して、市の復興や未来を担う人材の育成を目的としています。

9月中旬までに道の駅よつくら港などで職場体験をした後、体験をまとめたマンガを製作。作品は道の駅よつくら港（11月18日）と、市文化センターでのわくわくキッズミーティング（12月22日）で発表します。

新盆の家々を回って笠踊りを披露します。「訪問したお宅の皆さんのが喜んでくれたり感謝して下さっている顔を見ると、活動を続けてよかったなと思います」と鈴木さん。

同会は小中学生の兄弟も練習に参加していて、「踊りを少しずつ覚えていくのが楽しい」と声をそろえており、若い世代も積極的に伝統芸能に取り組んでいます。

たったひとつの宝物

ゆずは末っ子同然です

佐藤みゆきさん

トイプードルのゆずは、5才の男の子です。娘ふたりは嫁に行つて、今は家には息子がいるだけなので、ゆずは私にとって末っ子みたいなものですね。

震災当日、たまたま活動が休みで家にいた息子は、地震の揺れが続く中、ゆずを抱えて四倉高校まで避難しました。津波は自宅の床上まで流れ込んだので、ゆづがひとりで家にいたらどうな

や静岡の親戚宅などに避難しましたが、ゆずは環境が変わったことが分かつたようで、いつも静かでした。家に戻つてからも余震や小さな音に敏感になつてしまい、ちょっとかわいそうですね。

この陶板は道の駅が仮店舗で営業中、イベントなどの際にコーナーを設けて来館者に書いてもらつたもので、陶板を提供した四倉陶芸サークルが窯入れをして仕上げました。



息子さんの機転で津波から逃れたゆづ



復興への思いを込めて、応援メッセージ入りの陶板を貼る子どもたち

夏のイベント情報

■8月25日(土) 四倉町志津の三宝荒神社の例大祭

■8月26日(日) 四倉諏訪神社の西瓜祭

■9月29日(土)・30日(日)
第17回 いわき凧揚げ大会 四倉海岸で開催されます。

29日は前夜祭で、30日の本大会は午前9時から午後2時まで。全国各地から凧の愛好家が集まって自慢の腕を披露します。



平成22年4月に行われた2艘目の伝馬船「海星丸」の進水式の様子。海星丸は震災時いわき海星高校のヨット部の保管庫にあり、奇跡的に津波の被害を免れました

震災によって、活動拠点でもあつた豊間をはじめ、沿岸地域から活動を再開させ、月1回の研修会で豊間、薄磯地区の屋号を地図に残す取り組みなどを始めています。

伝馬船はいわき沿岸で近年まで使われていた木造小船。造船や手漕ぎの技術を復活、継承していくこと、地元の船大工や元漁師が同館とともに平成21・22年の2年間で2艘完成させました。

郷土の自然や文化を守つていきたい

「プロジェクト伝」活動再開

震災後の文化継承へ。豊間、薄磯の屋号など調査

が甚大な被害に遭い、自然や文化の保存、継承が難しくなっていなか、同事業を手始めとしてその持続可能性を考えています。

6月27日には、地域の文化を学び伝えていく人材を育てていくごと「海道いわき文化探訪ボランティアガイド」の研修会がスタート。いわき地域学会相談役の山名隆弘さん(平)をコマディネーターとし、民俗芸能学会福島調査団の山崎祐子さん(東京都)らが講師を務め、月1回のペースでさまざまに取り組んでいます。

地域の人々の思い

7月23日に行われた2回目では豊間字八幡町の遠藤光子

さん(70歳)が、豊間地区の屋号について調査した内容を発表しました。遠藤さんは津波での流失を免れた悔やみ帳の記載を

もとに友人・知人への聞き取りなどで屋号を軒ずつ確認し、地図に落とし込みました。

「地図を作りながら、震災前の町の様子が浮かんで悲しくなり、精神的につらい作業だった」と心情を語った遠藤さん。それでも「屋号はその家への思いがこめられた大切なものです。地道な作業だが今後も続けていきたい」と意欲を燃やしています。

山崎さんは「あだ名が屋号の始まりで、名づけは最も短い口承文芸の一つ。広がりのある調査になるのでは」とエールを送りました。

次回の研修会は8月30日(木)13時から、市文化センター第4会議室で行われる予定。

申し込み、問い合わせは事務局の島貫さんまで



豊間地区的屋号を素材に地域への思いを語る
遠藤さん



感謝の気持ちを忘れずに… 小・中合同でプール開き



2年ぶりのプールに子どもたちも大はしゃぎ

7月17日、小・中合同のプール開きが行われ、子どもたちが念願の初泳ぎを楽しみました。

放射線量が $1 \mu\text{sv}/\text{h}$ と比較的高い箇所があったため、住民参加でプール掃除をしたほか、教職員が遅くまで残って作業する日もありました。

プールサイドには放射線を遮へいする効果がある厚さ22ミリの鉄板を50枚、ゴム板ではさんで敷き詰め、その上を人工芝で覆いました。さび付いていたフェンスもすべて新品に取替え、結果、平均 $0.37 \mu\text{sv}/\text{h}$ の線量が環境省が定める基準以下の $0.13 \sim 0.15 \mu\text{sv}/\text{h}$ まで下がりました。今後、地元の大工に協力してもらい、通路部分にすべて杉板を敷く計画。プール開きでは水谷大小学校長、桐生由久子中学校長が「この日を迎えるために協力してくれた方々に感謝の気持ちを忘れないで」と児童・生徒にメッセージを送りました。

災害公営住宅建設予定地の地権者へ現況説明

市住宅課は6月23日は薄磯、7月1日は豊間、7月23日は沼ノ内のそれぞれの地区で災害公営住宅の建設予定地の地権者への説明会を行いました。災害公営住宅は沼ノ内字西原の約0.5ha、薄磯字北ノ作及び三反田の約1.9ha、豊間字榎町及び番下作の約3.2haに建設を予定しており、いずれも農地。農地転用に関しても農地の見なし許可を得られたことで作業が具体化してきました。

地権者説明会は3・4月に行われて以来のこと。薄磯26名、豊間18名、沼ノ内8名の地権者が対象。

説明会では土地の買い取り価格や今後のスケジュールなどが示されました。市では今後、一人ひとりと用地交渉を行い、順調に行けば8月中には建築設計委託の発注を行いたいとのことです。

説明会では土地の買い取り価格や今後のスケジュールなどが示されました。市では今後、一人ひとりと用地交渉を行い、順調に行けば8月中には建築設計委託の発注を行いたいとのことです。

豊間公民館で開かれた地権者への説明会の様子



豊間伝統の獅子舞が復活

8月25、26日

～沼ノ内は8月26日～



豊間諏訪神社の獅子頭。氏子たちが大事に受け継いできたもので震災でも無傷でした

ふるさとに秋の訪れを告げる伝統の獅子舞が沼ノ内、豊間で披露されます。うち豊間では8月25、26日、諏訪神社例大祭で2年ぶりに奉納されます。

昨年は、代々祭りの世話をしてきた宿元や舞いを披露する船主宅、事業所など多くの場所が震災で失われてしまい、行えませんでした。今年も困難な状況は変わりませんが祭りに携わってきた神社総代、青年会OBらが地域の伝統文化を絶やさず守っています。

本祭では町内を回ります。また、沼ノ内諏訪神社の例大祭も8月26日午前9時から執り行われます。神社境内を皮切りに子どもたちの三匹獅子が地区内で披露されます。

情報発信へ生活再建サポートセンター開設

ふるさと豊間復興協議会（鈴木徳夫会長）は現在、豊間区連絡所隣に「生活再建サポートセンター」を開設の準備を進めています。移動連絡所とよま縛り（セントラル）の設置・運営には県地域づくり総合支援事業、市まち・未予定です。詳しくは次号で。

来創造支援事業を活用していくこと、情報発信に取り組んでいく予定です。詳しく述べます。



復興のシンボルに桜を植える 「さくら基金」創設

復興のシンボルに桜を植えるようと、豊間・薄磯・沼ノ内の3地区は合同で「さくら基金」を開設しました。震災から1年4カ月目となつた7月11日、豊間公民館で創設セレモニーが開かれ、関係者らが復興への決意を新たにしました。

基金は、ひまわり信用金庫（丘正昭理事長）、いわき信用組合（江尻次郎理事長）の協力を得て開設されました。同信金、同組合から桜の苗木1,200本分の200万円が寄贈され、これを基金の原

資として役立てます。将来、3地区にまたがつて整備される総延長約2.5kmの防災緑地帯の中に桜を植樹。それぞれの地区に記念碑を建立し震災を後世に伝えていきます。セレモニーには鈴木徳夫豊間区長、志賀隆一郎薄磯区

セレモニーに出席した3地区的関係者たち



植樹したハナミズキの根本には記念プレートも

同期会が母校に植栽

同期会はオリンピックの開催年に合わせ4年おきに開いてきました。震災では同級生4人が亡くなり、幹事の永山善二さん（東京、63歳）によると、今回は開催するかどうか迷ったそう。ですが、故郷の復興を応援し、仲間と近況を語り合おうと開催すること

お知らせ

◆井戸に注意!

薄磯地区内の井戸は雑草で見えにくくなっています。落事故の危険があったため、小塚・南作・南街隣組のみなさんが木材でふたをしてくれました。念のため注意してください。

◆薄磯に防犯灯新設

市の補助金を受け、薄磯地区の通学路に防犯灯12基が設置されました。

長遠藤欽也沼ノ内区長ら約30名が出席。代表で鈴木区長が目録を受け取りました。台理事長が「希望ある地域づくりの活動。参加させていただきうれしい」、江尻理事長は「地域金融機関として同調しながら協力していきたい」とあいさつ。鈴木区長が感謝を述べ、「50年後、100年後を見据えてのこと。今後も復興のために努力していく」と話しました。

今後、3区が協力し「豊間・薄磯・沼ノ内地区復興協議会（仮称）」を立ち上げ、基金の管理や復興に向けて取り組んでいく予定です。



ひょっこりも登場し、会場を大いに盛り上げました



揃いの衣裳で傘を回しながら、艶やかに踊り流す女性たちの姿はひときわ目をひいていました

**大勢の人で賑わい
小名浜に活気が溢れたお祭り**

8月4日の「いわき花火大会」を中心に、3日に「いわきおどり小名浜大会」、4日、5日に「おなはま海遊祭」が盛大に開催されました。

前夜祭として行われたいわきおどりは、会場をこれまでよりやや北側に移し、47団体1,470名が参加。例年通りの規模までとはいいかないものの、沿道を埋めつくす観客を前に元気いっぱいに踊り流しました。

海遊祭は、船舶や備品などの

会員を中心、3日に「いわきおどり小名浜大会」、4日、5日に「おなはま海遊祭」が盛大に開催されました。

8月4日の「いわき花火大会」を中心に、3日に「いわきおどり小名浜大会」、4日、5日に「おなはま海遊祭」が盛大に開催されました。

ほとんどが流出。港湾施設の損壊の影響もあり、昨年は開催を断念。今年は、20年来協力関係にある公益財団法人マリンスポーツ財団（東京・笛川会長）のさらなる協力のもと、開催にこぎつけることができました。

同財団は、まだ風評被害のあるいわきを盛り上げようとボート、備品などを貸与してくれたほか、全国各地の会員も応援に駆けつけてくれました。海遊祭委員会の田中英幸委員長は、来場者の笑顔と安全のため、スタッフ一丸となり準備を進めました。開催当日、大勢の人が訪

るいわきを盛り上げようとして、備品などを貸与してくれたほか、全国各地の会員も応援に駆けつけてくれました。海遊祭委員会の田中英幸委員長は、来

いため、西防波堤と海上の台船

から打ち上げられました。音

楽とともに打ち上げられる花

火に魅了され、大きな拍手と

歓声が上がりました。訪れた

観客たちは、夏の夜空を彩る

1万発の花火に復興の一歩を

感じたことでしょう。

海遊祭は、船舶や備品などの

福島の復興はいわきから!!

震災に負けず前を向いて

ワーボートデモンストレーションを楽しんでいました。
**いわきを照らす
復興の花火**

今回のメインイベントである花火大会。松本俊一実行委員長は、「本来の花火大会の復活を願う声が多く、いつまでも後ろ向きではいられない」と開催を決意。本来の打ち上げ場所である防波堤が復旧していな

いため、西防波堤と海上の台船

から打ち上げられました。音

楽とともに打ち上げられる花

火に魅了され、大きな拍手と

歓声が上がりました。訪れた

観客たちは、夏の夜空を彩る

1万発の花火に復興の一歩を

感じたことでしょう。

海遊祭は、船舶や備品などの

程度にかけて、いわきわくわく「しごと塾」事業が、市内6地区の先陣を切ってスタートしました。小名浜地区の小学生、8名が参加。「大漁旗を

描いてみよう&物語をつづろ

う」と題して、つるや染物店（小名浜本町）の鷹徳男さんと絵本作家のおくはらゆめさんを講師に迎え、職業体験

が行われました。

小名浜の事業では、さら

に、震災で今までのよう仕事ができる限りにいる漁業の人を

励ます」という思いも込め

られています。子どもたちは

2班に分かれ、大漁旗の由来

や歴史、作り方などの説明を

受けたあと、下絵づくりに取

り組みました。子どもたちそ

れぞれが描く小名浜の好き

な場所や名物など個性あふ

れるデザインは、各班ごと1

枚ずつの生地に筆で写し取り

ました。下絵に沿つてのりを

付け、染料で色付けをし、最

終までを絵本にしました。

最終日の7月30日は、小名浜機船底曳網漁業協同組合へ出向き、出来上がった大漁旗を贈り、同組合のベランダに掲げました。子どもたちは「難しい作業も多かつたけど、仕事の大変さとやりがいを感じていたようでした。

子どもたちが作った大漁旗は、小名浜公民館に展示される予定です。詳細がわかり次第、ふるさとだよりのブログに掲載します。

出来上がった大漁旗を見てとてもうれしかったです」と

仕事の大変さとやりがいを感じていたようでした。

子どもたちが作った大漁旗は、小名浜公民館に展示される予定です。詳細がわかり次第、ふるさとだよりのブログに掲載します。

「バス通り」
私たちの生活の道路

震災で、永崎小学校前の通称「バス通り」に架かる橋が崩落。今年3月に仮橋（歩行者、自転車用）が完成するまで、ほとんど人通りがなく、住民は「無人島にいるような気持ちだった」と当時を振り返ります。

小学校が再開し、仮橋を通る人たちも増え、少しづつ活気を取り戻してきましたが、車の通行はできず、狭い道を迂回しています。

橋の建設については、河川改良や河口部への水門の設置について詳細が決まった後、川幅を決定し、橋の整備に入る予定。

住民のみなさんは、このバス通りに、そして永崎地区に活気が戻ることを信じ、笑顔を絶やさず暮らしています。

生きる力を
身につけよう!!

子どもたちを対象とした「レッドベア防災キャンプ」が7月21、22日の両日、小名浜公民館で行われました。同キャンプは、阪神・淡路大震災の教訓を基に開発された学習プログラムを実施するNPO法人、プラス・アーツと神戸市消防団が開発。

7月22日から開催された県中学校体育大会に出場した江名中ソフトボール部。現大会が最後。震災で校庭の在、14名の部員の半数以上が3年生のため、今年度、公

みんなで楽しく
江名中パワー全開で!!

7月22日から開催された県中学校体育大会に出場した江名中ソフトボール部。現大会が最後。震災で校庭の在、14名の部員の半数以上が3年生のため、今年度、公

7月22日から開催された県中学校体育大会に出場した江名中ソフトボール部。現大会が最後。震災で校庭の在、14名の部員の半数以上が3年生のため、今年度、公



空き缶を使って、飯ごうを作っている様子。
2日目の昼食は、この飯ごうで炊いたご飯をみんなで食べました

7月22日から開催された県中学校体育大会に出場した江名中ソフトボール部。現大会が最後。震災で校庭の在、14名の部員の半数以上が3年生のため、今年度、公

1日目は、テント代わりのダンボールシェルター作りや新聞紙などで紙食器、空き缶を使っての飯ごう作りなどが行われました。その後、約6時間かけて20kmのナイトウォーキングとキャンドルファイアを行いました。2日目は班ごとに分かれ、バケツリレーや応急手当など防災学習プログラム、イザ！カエルキャラバンをゲーム形式で楽しく学びました。参加した子どもたちは、「疲れたけどいろいろなことが学べて楽しかったです」と清々しい笑顔を見せっていました。

7月22日から開催された県中学校体育大会に出場した江名中ソフトボール部。現大会が最後。震災で校庭の在、14名の部員の半数以上が3年生のため、今年度、公

柔道部
女子63kg級3位
田子優楓さん



「いつも明るく元気に!」がモットー。首から下げているのは、3年生が作ったお守り

小名浜トピックス No.5

いわきの海の幸を使える日を信じて

13年前から小名浜漁港前で営まれていた〈小名浜海鮮呑めさせ!!そばや〉。津波で被災し、13ヶ月間休業。今年4月24日に休業前と同じ場所で再開しました。

代表の宇野長秀さんは、震災後、被害の大きさに涙が出たそうで、場所も変え居酒屋にでもしようか…などいろいろ迷いましたが、「再開を待ってるよ」と声を掛けてくれる常連さんが多いこの場所で、もう一度はじめることを決意。「人と違うこと、誰もやらないようなことにも挑戦し、皆が集まる場所にし、地域に貢献していきたい」と今後の抱負を話してくれました。

店の規模を以前より広げ、営業時間も延長。海の幸をふんだんに使ったメニューを多く取り揃えています。

いわき市小名浜栄町3-1

☎0246-92-1919

●営業時間／10:00～22:00

※新鮮なネタが無くなり

次第終了

●火曜日定休



宇野さん(写真右)。人気の海鮮丼は、色とりどりの海の幸を目で楽しむこともできます

まちの話題

■小名浜市民プール

7月20日にプール開きが行われ、楽しみにしていた大勢の子どもたちで連日にぎわいを見せてています。8月26日まで利用可能となっています。

●料金／大人100円、高・専門生以下50円、未就学児無料

(土曜日は、小・中・高校生無料)

●時間／9:00～17:00(雷など荒天の場合は休みになります)

■江名幼稚園夏祭り

7月20日、PTA主催の夏祭りが開催されました。昨年は外で遊ぶことが制限されていたため園舎内で行われましたが、2月に表土の入れ替えを行い、除染作業が完了したので園庭で開催することができ、子どもたちが楽しそうにかけ回る姿を見る事ができました。

川又幸恵副園長は、「震災やいろいろな困難を乗り越えて、のびのびと健やかに育ってほしい」と子どもたちの成長を温かく見守っています。



自分たちで色を塗ったお面をつけ、園庭で踊る子どもたち

夏の風物詩が、勿来に再び！

復興へまた一歩

町おこし！若者たちにより復活した、伝統の行事

勿来地区が、まだ勿来市だったころ、鮫川河川敷では、昭和9年(記録上・当時石城郡植田町)から昭和34年まで、花火大会が行われていました。

平成8年、町おこしを目的に「お年寄りには懐かしい、若者には素朴なイベント」をと勿来青年会議所(勿来JC)が立ち上がり、「なこそ鮫川花火大会」を復活させました。

平成10年からは、運営主体として「なこそ夏まつり実行委員会」を発足。勿来JCは協力する形となり、いわきおどり勿来大会(昭和56年初開催)も同時に行われ、「なこそ夏まつり」と名称が変わりました。

実行委員会主催で、平成5



勿来の復興を願い、2年ぶりに大輪の花が夜空を彩りました



観覧客の中には浴衣姿の女性も



快晴のもと開催された四時ダムまつり。フリーマーケットや、コンサートなども開かれ、大勢のお客さんが足を運びました

今年も、消防団や交通安全協会など約20の団体の協力、地域住民の協賛を得て、2年ぶりに盛大に開催されました。

今後、協力体制をとれるか不安もありましたが、実行委員会、さらには地域の方々の協力を得ながら進めて行くことになりました。

平成17年、市内5つの青年会議所が合併することになり、今後、協力体制をとれるか不安もありましたが、実行委員会、さらには地域の方々の協力を得ながら進めて行くことになりました。

年から行られている四時ダムまつりも同時に開催することから、なこそ三大まつりとなり、2日間にわたって盛大に開催されるようになりました。

勿来地区が、まだ勿来市だったころ、鮫川河川敷では、昭和9年(記録上・当時石城郡植田町)から昭和34年まで、花火大会が行われっていました。

夏の夜空に 復興を照らす光



出店が並ぶ植田の街なかを元気に踊り流し、晴れ間も見えてきました

夏の夜空に 復興を照らす光

「復興は勿来から始まる！」

をテーマに7月28日、第30回いわきおどり勿来大会が行われました。開始时刻を迎えた頃、辺りは夕立でしたが、24チーム、約1、300名による力強

い踊りが始まると、雨も上がり例年以上の盛り上がりを見せました。

踊りが終り、20時からは、第16回なこそ鮫川花火大会が始まりました。約3,000発の花火が次々と打ち上げられ、夜空を照らす色とりどりの光に、大きな歓声が沸き上がっていました。

いわきに、勿来に、夏が到来！

海と人を
守り続けて…



赤津さん(中央)と、勿来・小浜海水浴場安全対策実行委員会警備員の方々

**市民が待ち望んだ
海開き**

8年前から、勿来海水浴場の警備を続けている赤津久元さん(71歳)。今年こそはと海開きを心待ちにしていました。長い間、勿来の海を愛してきました赤津さんは、また中止になつてしまふのではないかと不安だったそうです。

しかし、5月22日、同海水浴場は市内で唯一オープンが決定。「なんとか以前のような活気を取り戻したい！」と海開きに向けて、毎朝のように砂浜の掃除や草刈りを行つてきました。

翌29日には、第18回四時ダムまつりが開かれ、子ども連れや、お年寄りの方々などで賑わいました。2日間にわたって開催された、なこそ夏まつり。多くの方たちの心に、復興への希望の光が差したことでしょう。

勿来・小浜海水浴場安全部門実行委員会の渡邊徳二会長は「海に活気が戻り、たくさんの方が楽しもうに遊んでいるのを見て、見るプロの試合に会場は興奮でした。

第27代サンシャインガイドいわき・高塚三枝子さんが海開きを宣言。いわき市長をはじめ、関係者によるテープカットが行われたあと、サンシャインガイドいわきの3名と海水浴客たちは初泳ぎを楽しみました。



太陽がまぶしく照りつけた絶好の海水浴日和、勿来海水浴場には大勢の人人が集まりました

お知らせ

佐糠町 八幡神社例祭 開催

9月15日(土)9時ごろから、佐糠町鎮守八幡神社で例祭が行われます。地震によって全壊してしまった神社の改築を記念し、鳥居の隣に記念碑が奉られ、復興祭を兼ねて挙行されます。

また、子どもたちによる三匹
獅子舞「ささら」が奉納されるほ
か、子ども神輿の渡御も予定さ
れています。

「一刻も早い復興を願って」 募金箱に入めた想い

大会は総勢1440名の参加となり、その中には震災後から交流してきた、群馬県太田市パークゴルフ協会員44名も参加。「ガンバレイワキ」と手彫りされた瓢箪(ひょうたん)が贈られ、いわきを全力で応援してくれました。

太田市パークゴルフ協会の森内博嗣会長から「がんばれ、いわき!」と玉手箱が送られ、飄筆を受け取る林会長



今大会の参加費の一部を復興支援金としていわき市に寄付しました。

の募金も呼びかけました。林会長は「一刻も早く復興するために、できるところから協力したい」と前向きな思いを話しています。

7月20日、鮫川河川敷公園仮設パークゴルフ場にて、東日本大震災復興支援パークゴルフ大会が開催されました。

「たくさんの人と交流できる良い機会。どうせなら、みんなで楽しみながら復興に協力できれば」と話していました。

本誌6月号でお伝えした
「なこそ交流スペース」が、7月
29日、グランドオープンイベン
トを開催し、本格運用を開始
しました。

祝 なこそ交流スペース グランドオープン



同スペースを開設するために助成した、郵便事業株式会社、櫻井清幸植田支店長から祝辞が送られました

祝
なこそ交流スペース
グリーンオープン

会場には、来賓の方々をはじめ、近隣の区長や住民、スタッフなど合わせて35名が集まり、百笑溢喜さんによる漫談が行われ、会場は和やかな笑いに包まれました。

たくさんの声に支えられて…

昭和41年、植田町で創業した〈キムラヤ〉は、高校や、施設の売店などでパンを販売し、たくさんの人々に愛されてきたパン屋さんです。

震災で店が半壊となり仮店舗での営業を続けながら店を建て直し、7月8日にリニューアルオープン。新店舗でも佐藤豊さん(77歳)、広子さん(71歳)ご夫妻と、息子の克之さん(42歳)^{かつし}3人が力を合わせています。

仮店舗で営業をしていた時は、学校の生徒や、地域の方から「頑張って!」と多くの励ましがあったそうです。広子さんは「みんなが声をかけてくれたから頑張りました。ありがとう。これからも、寄る年に負けずに頑張りたいね」と満面の笑みを見せてくれました。

- 営業時間
8:30～19:00
 - 毎週日曜日・祝日定休

植田町本町1丁目8-9
☎0246-62-3651



生まれ変わったキムラヤと、仲むつまじい豊さん、広子さんご夫妻



ひまわりの苗に水やりをする佐藤さん。心を込めて育てられ、今では元気に花が咲きました

にNPO法人おぢや元気プロジェクトによって植えられたひまわりの苗を、大事に手入れしていました。「いつまでも、小浜の人間でありたい。そう思うと懐かしくなって、つい来ちゃうのよ」と笑顔で、ふるさとへの思いを話してくれました。

対象地権者個別面談スタート

市では、土地区画整理事業区域案について市都市計画審議会や市復興協議会での承認をうけるとともに、区画整理を計画している久之浜、豊間、薄磯、小浜、岩間の5地区の地権者を対象に個別面談を開始しました。(小浜・岩間は8月3日で終了)

面談では、事業内容の説明や土地の権利状況を確認するほか、生活再建の希望にそって、従前の土地から新たな土地を割り当てる換地、もしくは買上げを希望するなどの意向確認を行います。買取希望者には価格等条件が示されます。終了後には、地権者の意向をふまえて事業計画を作成。12月の認可を目指し、来年度以降は防災緑地や道路などの整備工事を開始します。

終了後には地権者の意向をふまえて事業計画を作成し、12月の認可を目指し、来年度以降は、防災緑地や道路などの整備工事を開始します。

個別面談実施中の地区の日程・場所については以下の通り。

久之浜・大久

- 日程：8月2日から8月末までのうち18日間
- 場所：久之浜・大久支所
- お問い合わせ／市都市復興推進課 沿岸域復興推進係 ☎0246-22-1243

豊間・薄磯

- 日程：豊間／7月27日から8月末までのうち17日間
薄磯／8月3日から8月末までのうち11日間
- 場所：豊間公民館、内郷雇用促進住宅集会所、市文化センター、ニュータウンセンタービル、小名浜公民館(豊間のみ)
- お問い合わせ／市都市復興推進課 市街地整備係 ☎0246-22-1138

ふるさとからのお知らせ

久之浜・大久

- 8月18日に予定されていた第2回久之浜・大久奉斎(ほうてん)祭は延期となりました。日程などが決定し次第、紙面でお知らせいたします。
- 9月15日(土)おでかけアリオス“タイムカプセル2012”△はじめての方もお気軽に参加できます。(詳しくはP1)

四倉

- 8月25日(土)三宝荒神社 例大祭 ◇模擬店が並びます。
- 8月26日(日)四倉諏訪神社 西瓜祭り△山形県尾花沢産の西瓜を参道で販売。
- 9月29日(土)、30(日)いわき凧揚げ大会(詳しくはP4)

平

- 8月25日(土)、26日(日)豊間諏訪神社 例大祭(詳しくはP6)
- 8月26日(日)沼ノ内諏訪神社 例大祭(詳しくはP6)
- 9月29日(土)、30(日)豊間地区復興祈念祭△豊間小・中学校でアトラクションや模擬店など。

小名浜

- 8月19日(日)、26日(日)復興・楽市～光輝くシーサイドin永崎△よさこいやカラオケ大会など。※雨天中止

勿来

- 9月15日(土)佐糠町鎮守八幡神社 例祭(詳しくはP10)

各地区でお祭りや催しが元気いっぱい行われています! ふるさとの皆さん、イベントの情報やまちの様子など伝えたいことがありましたら編集室までお知らせください。

●携帯電話からのメール
QRコードはこちら



復興に向けての自立 自治会が主体となり初夏祭り

7月28日、内郷雇用促進住宅で夏祭りが行われました。

この祭りは、自立への意識を高め、真の意味での復興を目指すと、内郷雇用促進住宅自治会(大河内喜男会長)が主体となり開催を決めたものです。これまでボランティア団体などの催しに参加することがほとんどでしたが、5月頃から役員たちを中心に何度も話し合い、自治会が独自で計画を練りあげ、盛大に開催することができました。

NPO日本伝統文化保存継承の会(稻木きよ子代表)からは浴衣150着が供与され、自治会初の催しに華を添えていました。

※夏祭りの模様は、ブログに掲載しています。



生活支援相談員からメッセージ

笑顔で待ってます!!

いわきのまちを「笑顔に」
ボラセン
だより
No.4

私は、主に勿来地区を担当し、雇用促進住宅や民間借上げ住宅等に避難されている世帯へ訪問をしています。

東田町の交流スペースでは、さまざまなイベントが開催されています。被災された方だけでなく近くにお住まいの方もぜひ寄ってみてください。笑顔でお待ちしています。



プロフィール
氏名 木幡 友彦
担当地区 勿来
星座 水瓶座
血液型 O型

いわき市社会福祉協議会 いわき市復興支援ボランティアセンター

いわき市平字菱川町1番地の3 ☎0246-38-6631



<http://iwakisaigaivc.blog.fc2.com/>

携帯電話の方は右記のQRコードからアクセスできます。

ふるさとから離れて暮らす皆様へ

ふるさとのことで知りたいことはありませんか? あの頃のお祭りがどうなっているのか、壊れてしまった道路はどうなっているのかなど。あなたが知りたいことを、お寄せください。

お名前・ご住所・電話番号など連絡先を明記の上、ハガキまたはFAX・メールで編集室までお送りください。電話でもお受けいたします。

※お寄せいただいた個人情報は、紙面その他での公開・利用などすることはありません。

●スタッフブログ更新中!

<http://ameblo.jp/furusato-iwaki>

QRコードはこちら



いわきあいあいで情報発信中!!

いわきあいあい 検索

Click

いわき市 ふるさとだより 第15号

平成24年8月20日発行

- 発行:いわき市
- 編集:有限会社 いまあじゅ ふるさとだより編集室
- 編集室:〒973-8411 福島県いわき市小島町3丁目3-3 プリンセス・アイ1F
Tel & Fax:0246-26-5157
Mail:furusato@asally.co.jp
<http://www.furusatodayori.com>